

伊万里市

まつうら

松浦

散策マップ



町の花「サクラ」



シンボルマーク



町の木「マツの木」

松浦町の概要

伊万里市の東の玄関口である松浦町は、周囲を眉山、大陣岳、黒尾岳に囲まれた盆地地形で、春や秋には、盆地特有の濃霧が発生し、神秘的な光景を醸し出します。

東には唐津湾に注ぐ松浦川が流れ、西から東にかけて松浦川の支流である藤川内川と黒尾岳川が流れ、その流域を中心に稲作のほか梨や葡萄などの果樹栽培がおこなわれています。

松浦町には、数多くの歴史的遺産や伝統文化が残されており、これらを後世に語り継ぐ資料として、平成25年度に松浦町誌が発刊されました。

松浦町では、まちづくり運営協議会を中心に豊かな自然環境や歴史的・文化的遺産を生かしながら、「豊かな自然のもと町民一人ひとりが元気で健やかな暮らしの創造」を目指して、地域の活性化に取り組んでいます。

発行者 松浦町まちづくり運営協議会

問合せ 松浦公民館(TEL0955-26-2001) 2015.2作成

伝統行事・イベント

①注連縄(へその緒)切り神事 (写真別掲)

●桃川諏訪神社の宵宮祭(10月22日夕)で行われる神事で約200年間つづいている伝統行事です。由来は神社の御祭神(御子神)と乳道祖神(母神)に因むものでむかし御子神がこの地で神誕の折、里人らが御子の胞衣(へその緒)を納める神祠(現在鹿路峠に鎮座の石祠)を奉建したという故事によるものです。●これは昔からの口碑(言い伝え)で上代伝説のロマンを感じますが、桃川地区の先人たちの神々に対する厚い崇敬心と豊かな叙情をしのぶことができます。●当日は神社でお祝いされた大神繩を神輿と共に峠の石祠まで奉持し、夕刻東より来る最初の男性(現在では車の運転助手)に繩をへその緒に見立てて切ってもらい神酒(大盃13杯半)を振舞って神官寿言を白し、諸厄を祓い、五穀豊穡、里内安全を祈願します。桃川の四地区が輪番でこの神事に奉仕しています。

②サマーフェスタ・まつら (写真別掲)

町おこしグループ「松っこ会」が主催して毎年8月に開く大イベントです。地元で活動する団体による演舞・バザー・花火大会など盛りだくさんの「夏の祭典」です。

③九州自然歩道 (歩いてみよう)

北九州を出発した歩道は佐賀県に入って背振・天山・八幡岳へと伸び、眉山の麓から東分北野—宮地獄神社(写真)—桃川宿—上原—多々良・黒髪山・国見山・長崎県へとつづいています。

④桃川親水公園

松浦川の治水安全度の向上と豊かな自然環境の保全・再生・創出をめざし、人と生物が共生する空間の中で川とのふれあいなどの自然体験の広場として、平成12年に開園しました。園内には、多目的広場、ホタル水路、休憩施設、せせらぎ水路、遊具などがあり、世代を超えて楽しめる憩いの場となっています。



史跡めぐり

①中野神右衛門清明供養塔 (桃川下分・瓶山)

この供養塔は元和7年(1621)に清明とその家臣の横田勘右衛門の追善供養のために建てられたもので、伊万里市史跡に指定されています。清明は藩主鍋島直茂公の重臣として慶長19年(1614)に伊万里代官西目心道(国境警護役)となって桃川に居住しました。土木・治水や焼物の振興にも大きな功績を残し、今でも「浄通(戒名)さん」の名で親しまれています。

②馬ノ頭井樋 (約400年前の水利工事遺構) (桃川東分)

鍋島藩の重臣成富兵庫茂安公が慶長16年(1611)に桃川馬ノ頭の地に構築した水利工事です。当時水位の低い松浦川の水を「伏越し」(逆サイフォン式)という珍しい工法で川底に桶樋(パイプ)を通して桃川台地に揚水し、耕作ができるようになりました。公益社団法人土木学会より「選奨土木遺産」に認定されています。

③雨乞祈願牛洗い (牛石) (提川梅岩)

提川の大陣岳の腹に牛の姿をした牛石と呼ばれる石があり、ここで昔から雨乞いの祈願が行われてきました。牛石に鼻輪や角をつけ、するめをたわしにして酒で牛を洗う珍しい行事です。記録によると寛政6年(1794)、明治6年、昭和14年の大旱魃の時に行われ、平成6年にも盛大に実施されました。(写真別掲)

④眼鏡橋 (中野原上分)

中野原の黒尾岳川にかかっている橋です。構築年代はよく分かりませんが石工の優れた技術をかいま見ることができます。市内にはここ以外に眼鏡橋はないとのこと貴重なものです。眼鏡橋は江戸初期に中国から長崎に伝わりその後各地に広まったと言われています。

⑤桃川御番所跡 (桃川東分・宿山)

藩政時代、佐嘉藩は唐津領境目で交通の要所であった桃川に御番所を設置し、旅人の出入りや物資の領外移出などを監視しました。番所跡には、当時の藩境石も保存設置されています。文化9年(1812)幕府測量方・伊能忠敬も伊万里地方の測量のためにここを訪れています。

⑥中野原石塔群、六跡地蔵 (上分・中通)

上分の旧道端に板碑や石塔群(写真)が建っていて、その中に天文7年(1538)銘の五輪塔や天文11年銘の六地蔵があり、500年間の世の移り変わりを見守ってきました。また中通にも享保10年(1725)建立の六跡地蔵があります。

⑦後田峠 (桃川下分—下平)

この峠道は藩政時代の本道で、桃川から山形・伊万里方面への主要道路でした。当時はまだ現在の桃川新道—桃川駅前—下平の道路はありませんでした。文化10年(1813)幕府測量方伊能忠敬の日記に「松浦川渡二十四間、桃川宿小休止、字後田、後田峠、字下平、山方村久良木……」とあります。佐嘉藩主も伊万里津巡見の折に通ったと伝えられ、多くの人々の往来でにぎわったことでしょう。現在ではコンクリートで舗装されていますが、道幅、石垣等は昔のまま変わらず江戸時代ヘタイム・スリップした感じがします。あなたも一度歩いてみませんか。

⑧藤川内古窯跡 (山形藤川内)

茅ノ谷窯は慶長年間(400年前)開窯、22連房の大規模の登り窯で「佐賀県指定史跡」に登録されていて、阿房谷窯と共に有名な「葉隠聞書」に「藤の川内山」と記されている窯です。

⑨桃川瓶山窯跡 (桃川下分)

開窯は江戸中期ごろとされていますが、それより以前、慶長年間、当時の西目代官・中野神右衛門が朝鮮陶工に焼かせたのが始まりとも伝えられています。主に瓶、壺、摺鉢などの日用品を生産していましたが、昭和30年代に閉窯しました。現在、窯跡は草に覆われていますが、姿を残している登り窯は、市内では桃川窯と椎の峰窯(南波多町)の二か所だけです。

◎町内のその他の古窯

中野原(餅田西、広谷、牟田原、岳野山、狼ヶ鞍)
山形(鞍壺、栗の木谷、餅田東) 提川(道園、勝久、卒丁古場)

⑩伊万里市天然記念物ヒラドツツジの巨木 (提川梅岩) (写真別掲)

梅岩の山口家の庭園にある木で、ツツジの巨木は珍しく大変貴重なものです。樹齢は350年以上と推定され、平成8年に「伊万里市天然記念物」に指定されました。全体の樹高は3.8m。4月から5月初めにかけて紅紫色の花が咲きます。

神社・寺院案内

①諏訪神社 (桃川鎮座)

●御祭神：武御名方神 豊受媛神 菅原道真公
●宵宮祭 (10月22日夕)には神輿行列と伝統神事「注連縄切り」が斎行されます。(別記)
●由緒：創建は遠く上古と伝えられ、藩政時代は藩境鎮護の社でした。



●文化財：古宮時代の鳥居扁額、天保年間の絵馬、高さ1丈2尺の大燈籠、雨乞亀石等があります。

②豊姫神社 (山形鎮座)



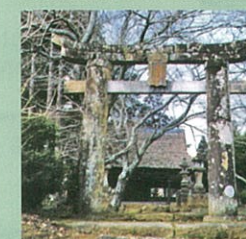
●御祭神：豊姫神 天照皇大神外 ●豊の祇園祭(7月29日)は舞台余興や多彩な催しで盛大です。大祭り(12月10日)には「頭渡し」と呼ばれる宮座の交代儀式が行われます。●由緒：神功皇后の御妹神を祀る古社で明和4年(1767)の棟札も現存しています。●拜殿の格天井の奉納絵馬(写真)は見事なものです。

③淀姫神社 (提川鎮座)

●御祭神：淀姫(与止白女)神 ●提川の総氏神社で創建は永禄年間(1560年頃)と記録されています。●由緒：藩政時代、社地は武雄領で「松浦郡武雄中提川村淀姫大明神」として奉祀されました。●文化11年(1814)銘の燈籠(写真)、弘化5年(1848)の酒呑童子絵馬等があります。●毎年例祭は7月14日です。



④熊野神社 (中野原鎮座)



●御祭神：熊野速玉命、天照皇大御神外 ●例祭は7月31日で昔から「権現さんの祇園祭」として有名です。●由緒：熊野信仰の古社として歴史が古く、享保4年(1719)の棟板が現存しています。●2基のうち奥の鳥居は宝永5年(1708)の建立で、300年の風雪に耐えて建っています。(写真)

◎町内のその他の神社

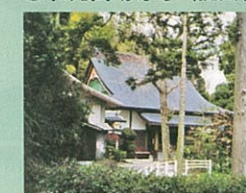
宮地獄神社(東分・元禄9年(1696)銘の千部結願塔)
巖島弁財天社(下平・慶応3年(1867)奉造の御像)
乙姫神社(久良木・流造本殿獅子阿吽像をもつ燈籠)
藤川神社(藤川内・銅板葺本殿、梟像をもつ燈籠)など

⑤慈光山浄誓寺 (桃川下分)

梵鐘の銘文によれば、「京の人古河長門守が肥後の西光寺にて得度、善忠(第一世)と称し、天文15年(1546)にこの地で開基、第二世了尊の時、本願寺より慈光山浄誓寺の号を賜る。」とあり、牛津川以西では最初の浄土真宗寺院として長い歴史を持ちます。江戸期には僧侶の学問所として遠く熊本・長崎などからも学僧が集いました。明治初頭、本願寺阿弥陀堂を模して建立された現在の本堂は総ケヤキ造り。見事な彫刻が施され、高くそびえる大銀杏とともに広く遠近に知られます。



⑥和光山明尊寺 (提川村分)



●寛文元年(1661)桃川浄誓寺第四世了海師の開基で御本尊の阿弥陀如来御木像は安永4年(1775)に西本願寺より下付されたものです。●安政3年(1856)建立の菅葺本堂は昭和59年に銅板葺に改修され、老杉や楠の木立の中に荘重な大屋根が輝いています。

⑦虚空山光雲寺 (山形藤川内)

●開基は釈宗益師(岸岳城主波多三河守末孫)で御本尊の阿弥陀如来は「貞享元年(1684)に本願寺第十四代寂如宗主が宗益に下付」と伝えられています。●千二百坪の広い境内に本堂や庫裡が立並んで偉容を誇り、前庭・内苑の庭園美はすばらしいものです。●以上、三山とも浄土真宗本願寺派です。



◎子安観音堂(金石原・伊万里新四国第十二番「子安様」と慕われる) ●宿分観音堂(伝高麗人奉祀) ●宿分歡喜天徳(豊姫社下・元禄12年銘) ●下分薬師堂(文化元年扁額・六跡地蔵) ●上原観音堂(江戸時代の古地図にもある古堂) ●村分諸仏堂(新築の堂宇) ●岳坂薬師堂(裏の五輪塔群) など

